

子どもの進路決定に保護者はどのように関わるべきか

1. 「自立」を促すことが子育て最後の仕上げ

10代後半の思春期の子どもは、社会性も含めた基本的な生活習慣の確立という意味での子育てはほとんど終わっています。受験期の子どもに対しては、子育ての最後の仕上げとして「自立」を促すことに力を注ぎましょう。「自立」とは、子どもが将来の目標と、それを実現するために進むべき道を自らの力で決定し、それに向かって自ら前進していくことです。この「進路支援」が、思春期の子育てで最も重要なポイントです。

2. 保護者は自信を持ってアドバイスを！

進路支援では、子どもの目的意識が大きな力を発揮します。目的意識のある子どもは、大学の勉強も卒業後の仕事も積極的に取り組むようになります。子どもにしっかりした目的意識があれば、保護者はじっと見守っているだけでもいいのです。目的意識の醸成を助けるのが保護者のアドバイスです。社会経験に基づいた保護者の「生きた体験談」は、子どもには新鮮な刺激になります。進路について親子が話をするとき、子どもの言うことより、実社会で働き、日々生活を営んでいる保護者の言うことのほうが正しい場合が多いのですから、自信を持ってアドバイスしましょう。

3. 大学卒業時、企業から求められるのは70%

今世紀では就職難と言われています。たしかに社会の経済不況がその原因でもありますが、もう一つ大学卒業時に社会に適用する学生は70%しかいません。その他30%は企業の人事からは求められないのです。その原因は保護者にあります。子どもには勉強だけやらせて、その他子どもがやること全てを保護者がやってしまうのです。また、ブランド（大手）志向の保護者も困ります。企業の99.7%が中小企業、大手企業は0.3%しかありません。

4. 自己投資と生涯賃金

大学で資格をめざすなど、しっかりとした目的意識を持った学生は借金をしてでも大学で勉強しようとし、自分の学費は自分で働いて稼ぎながら二部（夜間課程）で学ぶ学生もいます。彼らは「自立」しています。学歴と生涯賃金の関係でみると、およそ大卒で3億円に対し、短大卒・高卒で2億5千万円と、5千万円の違いがあるといわれています。学費は、いわば将来への「自己投資」なのです。私は今後、「学生が自分で稼いで大学に行く」社会へと転換すべきだと思っています。もちろん学生がフルタイムで働くのは難しいので、奨学金や教育ローンなどを利用して、社会人になってから返す方法をとればいいのです。

5. 社会で求められる人材になろう

企業では、給与のほかに社会保険や福利厚生など、社員にかかる人件費は生涯賃金とは別に1億5千万～2億といわれています。ですから、企業が優秀な人材を厳選して採用したいと思うのは当たり前のことです。では、企業で求められない人とは、どんな人でしょうか。企業関係者からよく聞く話では、“親がかり”、すなわち親がすべてやってしまうタイプは、企業では必要とされません。学校では、もちろん勉強し知識を得ることも大切ですが、勉強以外の部分、たとえばクラブ・サークル活動やアルバイト・奉仕活動など、自分のことは自分でやろうとする、主体的な活動を充実させることも必要です。それが社会性や集団行動、コミュニケーション能力など、社会で必要とされる力を養うことになります。

6. 進路選び早期に—大学選び—

- ①進路選び早くから親子で検討
- ②活字、写真、HPだけではなく自分の目で確かめる—決定したら進路先で本物を確かめる
- ③会場説明会、オープンキャンパス等をうまく活用するとプロフェッショナルになれる
- ④大学進学は自己投資と誓約書も必要か

7. 生活リズムと食事（栄養）が大切—親の責任重大—

受験には、本人の力量だけではなく保護者（家庭）のバックアップが欠かせません。責任があると言ってもいいくらいです。たとえば、推薦入試の判定基準となる出欠状況や、面接で試験官である大人と話す際の態度には、保護者や家庭の状況が自然に映し出されるのです。一般入試でも、朝起きて夜寝る、食事を3食摂るというしっかりとした「生活リズム」の子どもは、そうでない子どもより得点が高い傾向にあるといわれています。また、保護者とのコミュニケーションを通じて、子どもたちは大人としっかり会話できる人間へと成長していきます。この能力が身につけば、受験だけでなく後の就職活動も順調に突破することができます。適切なコミュニケーションと、規則正しく健康な生活づくりを心がけてください。つまり、最後は健康なのであり、健康でなければ試験も乗り切れないし、社会に出て活躍できないのです。子どもの食生活への気づきも大切にしましょう。

8. 親・子の絆6か条

- ①我が家の“おきて”をつくる
- ②家のボスは誰かをはっきりさせる
- ③父親、母親の役割を明確にする
- ④子どもと喜怒哀楽を共有する
- ⑤子どもに集団生活をさせる
- ⑥食事をきちんとさせる